令和7年度　　県立水戸第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	○真理を愛する学問第一の校風の下、質が高く、活気ある授業や課題研究、社会と連携した教育プログラムを展開し、生徒が切問近思の姿勢で学ぶ学校 ○自主自立の精神を重視する自由な校風の下、生徒が何ごとにも主体的に取り組むとともに、中高・学年の枠を超えて切磋琢磨する学校 ○至誠一貫・堅忍力行の校是の下、豊かな人間性や最後までやり抜く力を育むとともに、高い目標に挑む生徒をしっかりと支援する学校

昨年度の成果と課題	重点項目		重点目標	達成状況
【成果】 　令和6年度の重点項目に関する8の重点目標の達成状況は、6項目でA、2項目でBであり、総括的には目標を達成できたといえる。 　生徒の授業満足度は、90%の目標を達成した。ICT活用も積極的に進め、茨城県立中学・中等教育学校の中で活用度第1位と評価された。 　米中派遣、文理・融合講座、キャリア探究対話、探究力向上セミナー、GRITセミナー　など「＋4学年」による行事を中高合同で実施することができ、参加満足度も97.4%に達した。 　ここにしかない新たな探究プログラム「ルーツ探究・水戸一の道」を開発し、中1では日本語、中2では英語で校内ツアーを行うことができた。 　学校行事・学級活動・委員会活動・体験型部活動などの特別活動においても、中高の生徒同士の交流および連携が活発になってきている。生徒会活動においても、高校生と適宜協働して活動している。 　令和7年度入学者選抜における本校の志願者数は292名であり、地域の期待の表れととらえている。 【課題】 　第1期生・第2期生の高校進学後の状況をはじめ、中高職員間の情報共有・意見交換を一層密にし、授業や生徒支援の改善等につなげていくことが必要である。	教育課程・学習支援の改善・充実（中高連携・教科横断での授業改善等）	①	中高連携・教科横断で授業改善を図り、生徒の授業満足度90%以上を目指す。	
		②	生徒全員がICT端末を有するBYOD環境の下、教育・学習活動におけるICTの有効活用を図る。	
		③	特色ある探究活動（ルーツ探究・水戸一の道等）の充実を図る。	
		④	科学の甲子園ジュニアをはじめ、他校生と切磋琢磨する「他流試合」への参加を奨励し、活躍を支援する。	
	進路支援の改善・充実（キャリア教育の推進等）	⑤	キャリア教育を推進して進路意識を高揚させるとともに、高校と連携し難関大学や医学部医学科をはじめ生徒の第一志望実現を支援する。	
	中高・学年の枠を超えた活動の推進（「＋4学年活動」等）	⑥	＋4学年活動など、中高連携での活動や特別活動の改善・充実を図るとともに、体験型部活動を推進する。	
	健康・安全の確保と法令遵守の徹底（相談環境の整備等）	⑦	最後までやり抜く力の育成や教育相談環境の整備を図るなど、生徒の心身の健康・安全を確保する。	
		⑧	業務改善を進め、職員の心身の健康・安全を確保するとともに、法令遵守を徹底し、違反件数ゼロを目指す。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		論理的に自分の考えを表現する力を育む生徒を育てる。	○授業の振り返りや解説を通して、適宜添削指導を実施し、文章読解力と表現力の養成を図る。 ○共有七箇条（根拠と主張のずれを防ぐルール）などの観点や文型を活用し、考えを整理しやすくする。作文指導はスプレッドシートや共有七箇条、一人ディベートの活用により添削指導を継続的に実施し、表現力への指導を充実させる。 ○接続表現などの語彙指導に重点を置いた指導を適宜行う。			
		基礎学力の定着を図り、段階的に全国学力学習状況調査に対応できる基礎学力の養成を図る。	○授業方法を工夫改善し、指導方法に対する研究を深めていく。 ○導入での漢字や語彙指導、中間の教科書主体の学習、終末の振り返りや問題演習と、60分間を3つのパーツに分け、見通しをもたせた学習を行う。 ○小テストや暗唱等によって基礎学力の定着を図る。間違い直しを習慣化させる。 ○現行学習指導要領に対応できる基礎学力を培う学習指導の在り方について検討を進める。 ○希望者に向け、放課後補講やテスト解説を行う。 ○辞書や副教材等を利用し、学習内容の定着、活用を図る。			
		中高一貫教育校の特色を生かした授業を展開できるような教育課程の工夫改善を行う。	○実生活に結びついた必然的な課題の設定や目指す身につけたい力の提示を毎単元心がけると同時に、グループでの話合いの学習時間を充実させる。 ○高校教員の授業参観や高校入学までに育成すべき力や生徒の実態、教材、教科書などの情報共有をすることで、授業の工夫改善を図る。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
社会	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識（高校での学習等や「繋がり」）を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○６０分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ＩＣＴ機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○６０分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		綿密な教材研究や授業改善を図るとともに、高等学校地理歴史科および公民科への円滑な接続を図るための確かな学力を養成する。	○教員相互間での研修により専門性を高め、生徒の知的好奇心を喚起する授業の実施を目指す。 ○基礎・基本の学力定着を図るとともに、自ら思考する能力、資料を分析する能力、課題に取り組んでいく姿勢等を身につけさせる。 ○授業時数減への対応として、従来通り生徒が多面的・多角的に思考・判断し、表現できるようにするために手立てを考える。			
		教科研修の充実によって、教員の授業力の向上をはかるとともに、新学習指導要領、中高一貫教育、評価方法の研究を進める。	○ＩＣＴ機器やソフトウェアの活用方法に対する研究を継続的に実施していく。 ○学習指導要領、中高一貫教育に対する研究を継続的に実施していく。 ○生徒の学習活動・能力を的確に評価する方法の研究を実施していく。			
数学	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		主体的に数学に取り組む態度を育成し、知識・技能の定着を図る。	○予習復習を励行し、教科書内容や基礎力の定着を図る。 ○課題や宿題について、タブレットを活用して課題の取組状況や習熟度の共有を図り、自発的に取り組む意識づけを図る。 ○生徒の解答や別解を紹介することで、様々な考え方を共有し生徒の興味・関心を高める。 ○生徒に問いをもたせる課題提示の工夫やその問いを活かした授業展開を実施する。			
		数学的な思考力・判断力・表現力が身につくよう授業展開を工夫し、進路実現のための学力向上を図る。	○学力調査や大学入試の傾向に合わせて、単元テスト・実力試験の問題精選を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力を付ける。 ○疑問や新たな気付きをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話合い活動を充実させることを通して、新課程による大学入試に対応できるような説明する力を付ける。 ○問題解決の過程において、考えを伝えあうなどの意見交流の場を設定し、対話的な学びを積極的に取り入れていく。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
理科	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		知的好奇心を育て、科学的な思考力・判断力・表現力が身につくよう、教員の授業力の向上を図り、授業展開を工夫する。	○自然科学の様々な事象現象について探究し、科学的な思考力・判断力・表現力を身につけられるように、演示・生徒実験を多く取り入れる。 ○デジタル教科書や、デジタル図説を駆使して授業展開をするなど、デジタル教材を活用して、知識の習得と整理がしやすくなるようにする。 ○担当者の専門性を生かした授業展開を行うことで、生徒に興味・関心をもたせられるようにする。			
		確かな学力の定着を図ると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。	○単元テスト・実力試験の問題の精選検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力をつける。 ○疑問や新たな気づきをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話し合い活動を充実させることで、相手に説明する力をつける。			
		中高一貫教育の理科教育の在り方、評価方法、新学習指導要領の研究を進める。	○現行学習指導要領に対応するための学習指導の在り方や校内模試の在り方など、本校の理科教育の在り方について改善を進めていく。 ○校内試験や実験レポート、毎時間の学習の振り返りなどの評価への生かし方についての研修の機会を設け、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
音楽	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		主体的に音楽に触れることで芸術に対する感性に気づき高める意識・態度を育てる。	○多様なジャンルの音楽や音素材に触れる機会を増やし豊かな感受性と表現する力を育む。 ○主体的に音楽に関わる態度を育て、音楽をはじめとするさまざまな芸術に対する関心・意欲を高める。			
		音楽を表現する様々な方法に気づき、自分の感性を活かした表現を目指す。	○歌唱・器楽・創作・鑑賞の各分野を偏りなく指導し、それぞれのつながりを感じながら表現する態度を育てる。 ○発表の場を設けることで他者の表現なども参考にしながら個性豊かな表現を工夫する意欲を高める。			
		音楽を理解しよりよい表現につなげるための基礎的な知識を得る。	○音楽の諸要素（形式・構成・音色・リズム・速度・旋律・テクスチュア・強弱）について学び理解を深めることで豊かな表現を目指す。 ○基本的な唱法・奏法・創作の知識を身につけ、よりよい音楽表現を目指す。			
美術	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		鑑賞の機会を確保するよう努める。感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○生徒の興味、関心をもたせるため、より多くの作品に接する機会を増やし、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 ○様々な領域、多様な表現方法の作品を取り上げ鑑賞させる事により芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。			
		自発的に、課題に取り組む姿勢をもたせる。	○実技・実習の時間をできるだけ確保するとともに、その内容を精選し、段階的に工夫して実践できるようにする。基礎を大切にしつつ、応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○自分の表現を発表する機会を増やし、その表現を生徒同士で共有し理解し合う場面を多く設ける。			
		新たな教材研究に努める。	○新しい展開を生むための教材研究に努めるとともに、教師自身が技術向上の研鑽を積み、高いレベルでの実演、指導ができるよう努める。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
保健体育	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		自己の体力を把握させるとともに、健康や運動に関する意識を高める。	○昨年の体力テストの結果を反映し強化が必要な分野（柔軟性・瞬発力）について、体育授業のW-UPで、毎時、ストレッチや補強運動を実践する。 ○長距離走への積極的な取り組みにより、基礎体力の向上を図る。 ○投動作の強化向上を図るため、教具を工夫し、練習の機会を設ける。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。			
		授業時のケガの防止に努める。	○運動時の安全に配慮した場の設定等を計画的に行いながら、ケガ防止のためにの正しい動きを身につけさせる。 ○授業に臨むに当たり、健康観察、感染症対策、熱中症対策、交通安全に努めると同時に、生徒にも健康安全に対する自意識の向上を喚起する。			
		「保健」をとおして心身の健康の保持増進を図る。	○「保健」を通じて、思春期における生徒の健全な成長を目指し、外部講師等の活用を図った授業を展開する。 ○「保健」の授業を通し、思春期における自身の健康課題と社会的な課題における自身の役割を理解させる。 ○ICTの導入及び積極的活用を図る。			
技術・家庭	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能の習得を目指す。	○小テストを定期的に行い、基礎的な知識の定着を図る。 ○必要用具が1人1つ行き渡るよう整理し、全員が十分な実践的学習時間の確保を目指すことで、基本的な技能の習得を図る。			
		衛生面や安全面に留意し、体験的な活動から実践的な力の定着を図る。	○実習室や使用する用具の管理を徹底し、安全に製作や実習、実験などの活動ができるようにする。 ○状況に応じ安全を考慮した上で、より多くの体験的な活動ができるように努める。			
		生活や社会の中から問題を見いだし、よりよい生活へ改善しようとする意識の向上を目指す。	○グループ活動やペアワークを取り入れ、学んだことを生活の中で活用できるように努める。 ○自らが日々の生活の中で、主体的に課題発見と改善策考案を模索し続けられるように、ICT活用だけでなく、より体験的な学習の場の提供を目指す。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
外国語	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。			
		実践的な活動を通して、場面を想定したコミュニケーションをとるための基本的な知識と技能の定着を目指す。	○基本的な表現の理解を深めるために、授業時間内に場面を想定した活動の時間を十分に確保することで、知識の定着を図る。 ○授業内容ごとに自作プリントを作成し、基礎基本の定着を図り、言語活動における表現力の向上を図る。			
		日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする力の定着を目指す。	○ICT機器を活用して、自己の考えや意見を表現する機会を単元のまとめとして設定することで、思考力や判断力の育成を図る。 ○Googleスライド等を活用しプレゼンテーションの機会を設けて、表現力の育成を図る。 ○「話すこと＜やりとり＞」を意識した授業展開の研修を進める。			
		自らの学習を調整する力の育成を通して、主体的に学習に取り組む態度の定着を目指す。	○学習サイトを用いて、自ら学習内容の定着を図る場を設定し、目標を明確にすることで主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ○授業で学習した内容の確実な定着と自らの学習を調整する力を育成するために、振り返りの時間を毎時間確保し、次時の学習への意欲の向上を図る。			
教務		教育課程の工夫改善をする。	○授業時間増を生かした教育課程を作成し、少人数指導を行うことで、学習内容について発展的なものまで扱えるように努める。また、教育課程を変更した効果について、今年度の検証をする。			
		授業時間を確保する。	○自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。さらに、授業の曜日変更により、授業時数の均一化をはかる。また、夏季特別編成授業を円滑に実施する。			
		授業内容のさらなる充実を図るとともに、併せてICTの活用を推進する。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、教育改革部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、ICT機器（タブレット及び電子黒板等）を利用した授業展開を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。			
		教育活動を公表する。	○学年と連携して、小学生対象の水戸一高附属中説明会、公開授業の実施により学校を公開する。また、情報部と連携して、ホームページを通して、地域住民等に広く水戸一高附属中の教育理念を周知する。			
		統合システムを円滑に運用する。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動	学校行事を通じて、本校生としての一体感と誇りをもたせ、学校生活を充実させる。	○学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。 ○中高合同で実施する行事においては、中高6学年での実行委員会を組織できるように特別活動部が橋渡し役となり、双方に教育的な効果が生まれるよう配慮する。 ○中学独自の行事においては、6年間を見据えた内容になるよう考慮した内容を目指す。			
	部活動を通じて、豊かな感性と健全な心身を育む。	○高校と連携して四期にわたる「体験型部活動」の円滑な実施に努める。 ○体験活動を充実させ、体験型部活動に参加する部の増加を促す。高校との連携においても、双方に教育的な効果が生まれるよう内容を精査していく。			
	学級活動においてキャリア・パスポートを活用する	○各学年の学級活動においてキャリア・パスポートを作成し、様々な活動を通して身につけた力を整理したり、社会の中での自身の在り方を考えたりできるようにする。			
進路支援	生徒一人ひとりが深い自己理解に根ざした高い進路目標を抱くことが出来るように、キャリア教育を推進して進路意識を高揚させる。	○高校と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。 ○自己理解や職業関連のプログラムや大学に興味関心を持つことができるような進路学習を円滑に実施し、キャリア教育と進路指導の両面で将来を見据えられる生徒の育成に向けて、指導の充実を図る。			
	生徒の学習意欲を引き出し、興味関心や得意分野を生かすことができるよう支援をしていくとともに、学習に対し不安感を抱く生徒への学習支援も展開していく。	○他流試合学習会や学力向上学習会を定期的に実施し、各種の科学コンテストや検定試験等で成果をおさめられるよう支援していく。 ○フォローアップ学習会を定期的に実施し、学習に対して不安感を抱く生徒に個別に対応し支援していく。			
	学年間の連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。	○学年及び高校と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努める。保護者に対しては、生徒の現状に合わせた家庭でのかかわり方等の情報提供に努める。			
	6年間を通して見渡せるような進路指導の流れの構築を進め、それらの情報・データを職員間で共有できる環境を整備し、一層の進路指導の充実を図る。	○県内外の附属中学校や中等教育学校の進路指導形態を調査・分析し、本校における高校接続までの進路指導の流れを構築する。 また、この分析したデータベースを活用して職員研修等を実施し、指導に有効と思われる形態についても研究を進める。			
教育改革	チャレンジ・プロジェクト（中学：ルーツ探究・水戸一の道、高校：＋4学年活動等）の充実を図る。	○ルーツ探究・水戸一の道や課題研究、知道プロジェクト発表会等を通して、自ら課題を発見し、多様な視点から論理的に考察する力（切問近思の学習姿勢）や自らの考えを他者に伝える力を培う。 ○米中派遣、文理・融合講座、キャリア探究対話、探究力向上セミナー、GRITセミナーなど＋4学年による中高連携の活動を推進する。 □			
	教員の授業力向上を図る。	○中高合同の授業改善チームを中心に、教科横断で授業改善を推進していく。 ○校内授業公開、校内教員研修会、先進校視察等を積極的に行い、指導技術等の向上を図る。			
	開かれた学校づくりを推進する。	○「＋4学年活動」を中心とした中高連携を推進し、相互に連携・交流を深める。 ○「学校公開」や「水戸一の道」校内ツアーを行い、本校の教育活動や取組を広く周知する。			
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。	○「総合的な学習の時間」を通して、進路意識と探究心を刺激し、自らの将来像について考えを深めていく態度を育む。 ○「道徳」を通して、道徳的判断力や道徳的実践意欲・態度を育む。 ○総合的な学習の時間や道徳などの授業において、中高合同授業を実施することで、異学年間交流を図るとともに、生徒の多面的・多角的な思考力・判断力・表現力を養成する。 ○毎日の学習の振り返りやキャリア・パスポートなどを通して、主体的に学習に取り組む態度や自身のキャリアを形成する力を育む。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
生徒支援	基本的生活習慣の確立を図る。	○教員が率先して挨拶を励行し、校内外で挨拶しあう態度が自然となるようにする。 ○ボランティア活動を奨励し、地域等で進んで貢献・奉仕しようとする態度を育む。 ○水戸一高附属中生として誇りの持てる行動を問い、規範意識の高揚を図る。			
	生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、連携を取り合い適切に支援する。	○教育活動全体を通して、思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高附属中生としての自覚と責任ある行動を支援する。 ○生徒の心の変化や悩みを把握するためにアンケートや面談の機会をより多く設け、生徒支援上の問題に対して予防的に対応できる体制を整える。 ○各学年・保健厚生担当職員・養護教諭との連携を密に、生徒の状況を的確に把握し、生徒の心身の健全な育成を支援する。また、高校とも情報を共有し、多くの教員の目で生徒を見守る体制を整える。 ○インターネットやスマートフォン、タブレット等の適切な使用法を家庭と連携しながら繰り返し指導し、情報モラル意識の向上を支援する。			
	交通安全の意識を向上させる。	○生徒通学路の安全状況を把握・確認し、関係機関とも連携して生徒が安心・安全に通学できるよう対応する。 ○法規に従った安全な行動について繰り返し指導する。特に、自転車の乗り方については被害・加害両面についての注意を促し、自転車による交通事故ゼロを目指す。			
	いじめ問題に適切に対応する。	○生徒と共に歩む教員集団で生徒の看護や協働を徹底し、いじめの未然防止に努め、いじめのない学校を目指す。 ○いじめを早期発見する手段の一つとして、毎月の学校生活アンケートを実施して生徒の状況を綿密に確認し、それに対して各部署や家庭との連携を図り、迅速かつ適切に対応する。 ○教職員対象の校内研修を実施し、いじめに対する意識を高める。			
	学習環境の整備に努める。	○4月の大掃除前に、清掃用具の点検を全て行い、補充をする。また、清掃指導を行う。 ○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、各種感染症対策をおこなったうえで、衛生状態が保たれるように取り組みを行う。（教室等のゴミ箱を廊下に出し、ゾーニングを徹底するなど。） ○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査、ダニの検査を実施する。 ○モップ交換や普通教室のカーテンのクリーニング、ワックスがけを行う。 ○施設・設備の安全点検を行い、環境の安全の確保を図る。 ○カウンセリング室の整備継続や感染症疑い生徒の待機場所確保を行う。 ○毎日の健康観察の実施による養護教諭との情報共有。健康観察の状況によって、必要に応じて生徒の面談を積極的に実施する。 ○保健調査や各種健康診断等の実施。 ○緊急時の各種マニュアルの計画的な見直しと各種研修会等の実施。 ○教室に、避難経路の提示をする。			
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	○健康診断や保健室利用時などの機会を捉え、それらをいかした保健指導を行う。 ○保健体育の学習や各教科、HR、行事等との関連をもたせた、事故・けが等の予防や各種感染症に対する予防を徹底するよう指導する。 ○各学年、生徒支援部安全担当職員、スクールカウンセラーとの連携を密にして、保健日誌の活用や情報交換、出身小学校との連携等を行うことで、生徒の心身の健全な育成を目指す。 ○健康に関する情報提供のための「保健だより」の毎月1回の発行。 ○災害時における避難訓練を中高合同で行い、校内の状況と避難経路を確認し、防災に対しての意識を高めるよう指導する。引き渡しに関する、中高の基準等について確認し、非常時に備える。 ○中学職員と保健厚生担当職員の連携及び各種講習会や講演会の実施を積極的に行う。 ○栄養職員と連携し、衛生的で安全な給食指導の実施と食育の推進。 ○アレルギー対応委員会での共通理解や連携を密にし、食物アレルギー生徒の対応を万全に努める。新年度、給食開始の前に、職員全員でエピペン講習会を実施し、アナフィラキシーショックの場合の対応について共通理解を図る。 ○学期ごとに、エンカウンター活動を適切に取り入れたり、金曜日にペアワークで取り入れたりして、心身の健康に努める。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
情報	校内ICT環境の改善・整備を適切に行う。	○GIGAスクール構想に基づき、適切な教育が進められるようICT機器の更新や整備を行う。 ○生徒「情報委員会」の活動のあり方について助言をおこない、ICT環境の適切な使用に生徒が積極的に関われるよう支援をする。 ○ICT機器の使用方法や活用方法について、生徒に適切な指導を行う。 ○継続利用が見込まれるタブレットについて、適切な管理や使用を徹底する。			
	学校情報発信の充実を図る。	○生徒「情報委員会」の活動内容を、適切な情報発信をできるよう支援する。 ○ブログを通じた学校の教育活動の発信を年間を通じて定期的に行う。また、行事以外でも普段の生活の様子を積極的に記録し活用していく。			
	教育の情報化へ向けた支援活動を行う。	○教員が教育の情報化を適切に進められるように、ハードウェア、ソフトウェアの両側面から支援する。 ○他分掌、学年との連携を強化し、情報部として可能な支援を引き続き推進する。 ○情報セキュリティについて、生徒や教員に対して個人情報の厳重な管理やウィルス対策等について、注意喚起・情報提供を行う。			
	効果的な学校評価アンケートを実施する。	○学校評価の質問項目を継続検討し、より学校運営に生かせるような形を目指す。 ○保護者からの回収率を上げる方策を実施する。			
図書	図書館司書との連携を深め、自ら課題を発見し学ぶ生徒を支援する図書館として一層の充実を目指す。	○中学生向けの図書オリエンテーションにT.Tとして参加し、フォローする。 ○司書との連携を深め、教科からの授業内容に関連する推薦図書情報を得て、レファレンス・展示等をおこない、貸出利用に繋げる。授業等のニーズに合わせた、県立図書館の本の貸出の利用を勧める。 ○選書について、教科担当者からも意見を募り、多様な興味・関心をもつ生徒にできるだけ沿い、中学生向け選書にも配慮をしてゆく。			
	読書に親しむ環境を整え、読書への啓発活動を行う。	○総合的な学習の時間での利用をはじめ生徒一人ひとりの学習で一層の図書利用が進むよう、図書室でのPOPや新刊紹介、講義室や廊下に新聞閲覧コーナーや特設図書を設置する。 ○おすすめの本を紹介する等のイベントを感染状況に留意しつつ開催する準備を進め、生徒どうしの読書体験の共有・啓発運動を行う。 ○図書委員会有志による川又書店の店頭選書、夏の川又書店でのPOP展示を実施する。 ○除籍本をもらい受けて、各学年に朝の読書用に配備する。			
	高校生の委員会と連携し、生徒委員会活動のさらなる活発化を目指す。	○週２日のカウンター当番等を活動の基盤としながら、生徒委員を主体的に運営できる生徒の育成を目指す。 ○学苑祭の展示やビブリオバトル、読書会など、中高校ともに参加できるイベントを効果的な方法について検討、実施を進める。			
	機関誌を着実に発行し、本校の歩みを正しく記録する。	○年報の発行に向けて、編集方針検討や資料収集作業を着実に行う。 ○中学生による寄稿も実施し、図書館報2誌の制作を計画的に行い発刊する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
1学年	自他を思いやることができる温かい人間性を育む。	○毎日の振り返り（Classi 学習記録）に対するリアクション、コメントで生徒とのつながりを構築する。 ○こまめな家庭連絡や、三者面談を通して家庭との意思疎通を密にし、家庭と学校との両輪で生徒を支援していく体制を整える。 ○毎月の学校生活アンケート後はすぐに面談を実施し、生徒支援上の問題に対して予防的に対応できる体制を整える。 ○年度初めや席替えごとなど、あらゆる機会に構成的グループエンカウンター(SEG)などを実施し、お互いを認め合える機会を設定する。 ○自分を支えてくれている家族や友達、教員、学校の環境などあらゆるものに感謝できる心の深さ、謙虚さをもった生徒の育成。			
	楽しみながら高みを目指す学びの姿勢を涵養する。	○より高い目標を目指して邁進しようとする生徒の学習意欲を継続するための授業展開の工夫に努める。 ○自ら学びに向かう姿勢を育成する。 ○6年間を見据えた進路学習の実施。自身の進路の枠組みや方向性を意識し、夢をもって生活するための生きたキャリア教育を推進する。 ○ICT教材を効果的に活用することで興味・関心の枠組みを広げ、自ら進んで教科横断的に学習内容を掘り下げる意欲を高める。			
	当たり前のことを大切にする自己管理力の定着を目指す。	○個別の凡事徹底の声かけ。 ○当番や係活動の活性化を図り、一人一人が学級づくりに貢献できるようにする。 ○時と場にふさわしい挨拶が自然にできる雰囲気を作り、よりよい人間関係を構築を目指すなどの基本的生活習慣の確立に努める。 ○道徳の時間などを通して、集団生活の在り方の思考と自己肯定感の育成を計画的に実施する。 ○身の回りの整理整頓の徹底。 ○提出物の期限を守る呼びかけ。生徒心得事項の徹底。			
2学年	学習指導の充実と授業改善の推進する。	○附属中生が持つ能力を更に高める授業と教育活動を行う。教員、生徒がともに真摯に学び合う姿勢を追求する。 ○生徒が「深い思考力や判断力、表現力」を身につけ、高度な探究や視野の拡大につながる授業や学習活動を行う。			
	保護者や地域、高校生との更なる連携	○年2回の三者面談を行い、保護者との連携を十分に図りながら、生徒支援を行う。日頃の保護者とのやりとりを大切にし、信頼関係の強化に努める。 ○授業公開や学校説明会、ホームページ、classi等により、地域および保護者に向けた情報を発信する。 ○チャレンジプロジェクトの目的やねらいを事前に生徒に伝え、目的意識をもたせ、チャレンジプロジェクトの時間が有意義なものとなるような支援をする。			
	豊かな人間性（想像力に富む生徒）と心身の逞しさの育成	○知・徳・体のバランスが取れたリーダーとして活躍していけるよう、あらゆる活動を通して互いの違いや多様性を認め合い、協力・協働する中で、自分の可能性を見いだし、高い志をもって物事に挑戦する逞しい心身を育成する。			
3学年	教育・学習活動におけるICTの有効活用と、教育課程・学習支援における中高連携・教科横断での授業改善等に取り組む。	○ICT教材を効果的に活用することで興味・関心の枠組みを広げ、自ら進んで教科横断的に学習内容を掘り下げる意欲を高める。 ○外部模試（学力推移調査・アドバンストテスト）や各教科単元テスト・みらいPASSジュニア等のデータを共有しながら、中高連携の礎を築く。			
	保護者や地域、高校生との更なる連携	○年2回の三者面談を行い、二者面談を複数回実施することにより、生徒だけでなく保護者との意思疎通を十分に図りながら、生徒の支援をおこなっていく。また、信頼関係の構築をする。 ○授業公開や学校説明会、ホームページ、classi等により、地域だけでなく、保護者に向けた情報を発信する。			
	次の3年間に繋がる進路支援の改善・充実（キャリア教育の推進等）に取り組む。	○一人一人の進路実現に向けて、企業探究め活動や各種セミナーへの参加を促すなど、自らの将来像を具体化する土台作りができるような進路支援を行う。 ○日々の振り返りの蓄積等を活用した客観的データを元に、目指すべき理想像に向けた取り組みへの支援を行う。 ○次年度に水戸一高生として進学できる素養を今以上に持たせるため、学校行事への積極的な参加と同時に、学習面でも細やかな支援を行う。			

※評価基準　A：十分達成できている　B：達成できている　C：概ね達成できている　D：不十分である　E：できていない